

第7次那須町振興計画
後期計画
住民意識調査

令和元年8月

I 調査の概要

(1) 目的

第7次那須町振興計画後期計画の策定にあたり、住民の意向を計画策定に十分に反映させるための基礎資料とすることを目的に実施しました。

(2) 調査の方法

調査対象 : 町内に住む20歳以上の住民

抽出数 : 2,000人(町内4地区における無作為抽出)

調査方法 : アンケート調査、郵送配布、郵送回収

調査期間 : 令和元年6月21日(金)~令和元年7月20日(土)

(3) 回収結果

対象数(人) A	アンケート発送数(人) B	回収数(人) C	回収率(%) C / B
18,972	2,000	802	40.1

※前回46.6%

□地区別回収状況

地区名		高原地区	那須地区	芦野地区	伊王野地区	無回答
対象数(人) A		6,503	9,081	1,323	2,065	
アンケート発送数(人) B		686	956	140	218	
回収数(人) C		116	538	54	80	14
回収率(%) C / B		16.9	56.3	38.6	36.7	0.7

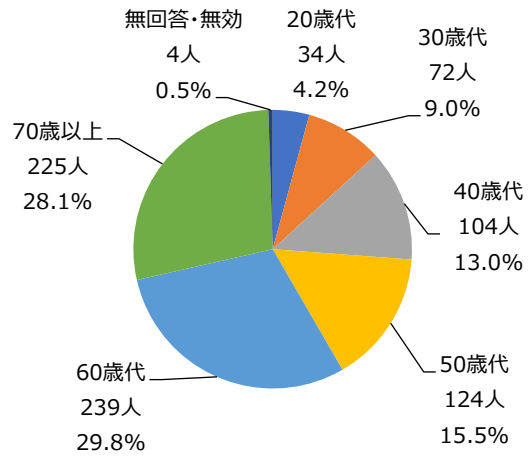
(4) 集計に関する留意点

- ①比率は百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示したため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- ②複数回答の場合、回答項目ごとに比率を算出しているため構成比の合計が100%を越える。
- ③回答設定数を上回って回答した場合には無効としている。

II 回答者の属性

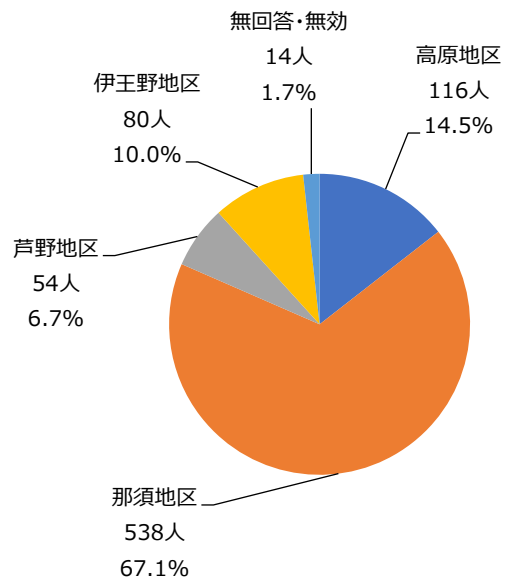
(1) 年代

区 分	人数 (人)	割合 (%)
20 歳 代	34	4.2
30 歳 代	72	9.0
40 歳 代	104	13.0
50 歳 代	124	15.5
60 歳 代	239	29.8
70歳以上	225	28.1
無回答・無効	4	0.5
合 計	802	100.0



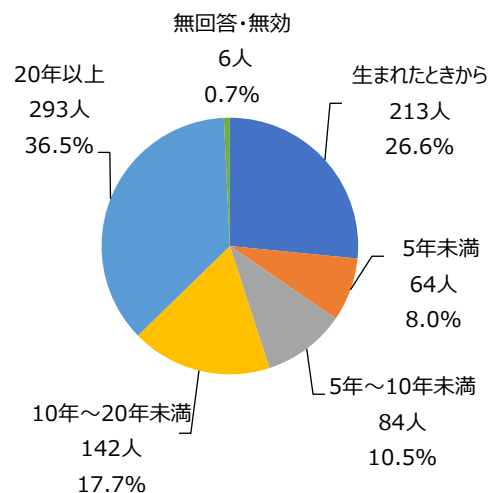
(2) 居住地

区 分	人数 (人)	割合 (%)
高 原 地 区	116	14.5
那 須 地 区	538	67.1
芦 野 地 区	54	6.7
伊 王 野 地 区	80	10.0
無回答・無効	14	1.7
合 計	802	100.0



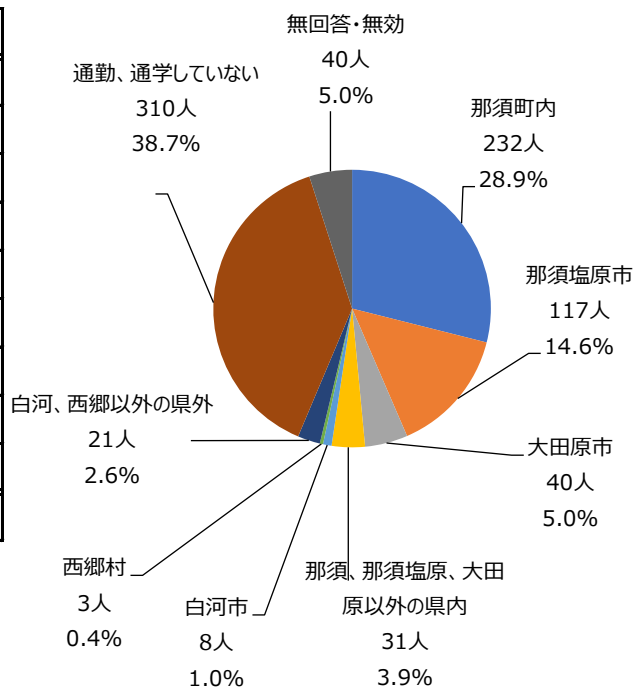
(3) 居住年

区 分	人数 (人)	割合 (%)
生まれたときから	213	26.6
5 年 未 満	64	8.0
5 年 ~ 10 年 未 満	84	10.5
10 年 ~ 20 年 未 満	142	17.7
20 年 以 上	293	36.5
無回答・無効	6	0.7
合 計	802	100.0



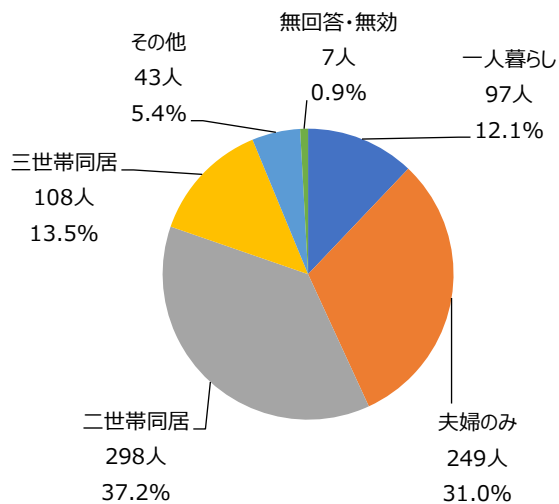
(4) 勤務先、通学先

区 分	人数 (人)	割合 (%)
那須町内	232	28.9
那須塩原市	117	14.6
大田原市	40	5.0
那須、那須塩原、大田原以外の県内	31	3.9
白河市	8	1.0
西郷村	3	0.4
白河、西郷以外の県外	21	2.6
通勤・通学していない	310	38.7
無回答・無効	40	5.0
合 計	802	100.0



(5) 家族構成

区 分	人数 (人)	割合 (%)
一人暮らし	97	12.1
夫婦のみ	249	31.0
二世帯同居 (親と子)	298	37.2
三世帯同居 (親と子と孫)	108	13.5
その他	43	5.4
無回答・無効	7	0.9
合 計	802	100.0



Ⅲ回答結果

結果の概要

○住みやすさについて

那須町の住みやすさについては、“住みやすい”は55.8%となっています。一方、“住みにくい”は16.4%となっています。

年代別にみると、「20歳代」で“住みやすい”が47.1%となっており、最も低くなっています。一方、「70歳代」は“住みやすい”が57.8%と最も高くなっています。

居住地別にみると、「高原地区」と「那須地区」で“住みやすい”の割合が高くなっています。「芦野地区」で「住みやすい」の割合が5.6%と最も低くなっています。

○定住意向について

定住意向については、“那須町に住み続けたい”は72.7%となっています。一方、「いずれは町外に住みたい」が19.7%となっています。住み続けたい理由としては、「生まれ育ったところで故郷を大切に思うから」、「住んでいる環境が良いから」が多く、他へ移りたい理由としては「生活するのに不便だから」が多くの割合を占めています。

○町の全般的な施策や事業の満足度・重要度について

町の全般的な施策や事業について、「医療機関の利便性」「交通機関の便利さ」「生活道路の整備」「幹線道路の整備」「日常の買物の便利さ」「交通安全対策」「通勤・通学の便」などの項目が重要度は高いが満足度が低くなっています。

○防災対策について

最も不安な災害について、「地震」が56.4%と最も高く、次いで「水害・台風」が15.1%となっています。

災害から身を守るため最も必要と感ずることについては、「情報伝達手段」が28.6%と最も高く、次いで「住宅の耐震化」が20.7%、「避難所や避難経路の整備」が19.3%となっています。

災害発生後に不安に感ずることは、「食料・飲料水の確保」が51.1%が最も高く、次いで「避難後の生活」が43.8%、「電気の寸断」が37.3%となっている。

災害に備えて家庭で行っている対策や準備は、「懐中電灯、ラジオ、薬」が59.7%で最も高く、次いで「飲料水、食料の備蓄」が39.4%、「消火器」が34.7%となっている。

災害時の頼りになる情報は、「ラジオ」が53.2%、「携帯電話(メール)」が51.5%、「テレビ」が49.8%と他の項目より高い割合となっています。

○町民参加・今後のまちづくりについて

町民の参加意欲については、「アンケート調査に協力する」が54.4%と最も高くなっている。

町の将来像については「緑と清流の保護・保全に力を注ぐ、自然豊かなまち」が55.0%で最も高く、次いで「生活環境の整備された快適なまち」が52.6%となっています。

○整備・改修希望施設について

整備・改修希望については「道路・歩道」、「図書館」、「運動公園」、「廃校の活用」、「スポーツセンター」が上位を占めている。

地区別高原地区で「公民館」、「空き家・空き店舗の活用」が上位に入っている。

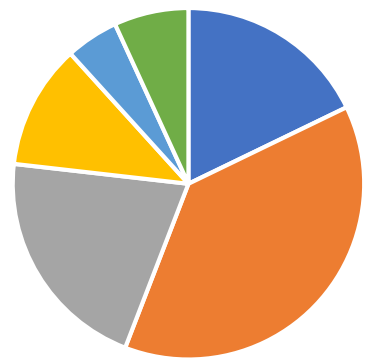
(1) 住みやすさ

【那須町の住みやすさ】

那須町の住みやすさについては、「住みやすい」が17.8%、「どちらかといえば住みやすい」が38.0%で、これらを合わせると“住みやすい”は55.8%となっています。

一方、「住みにくい」が4.9%、「どちらかといえば住みにくい」が11.5%で、これらを合わせると“住みにくい”は16.4%となっています。

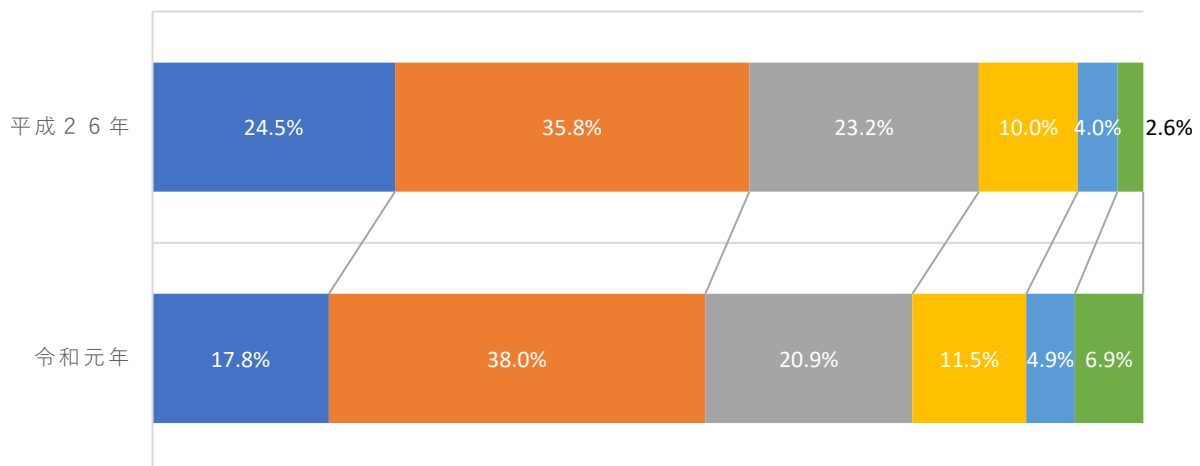
区 分	人数 (人)	割合 (%)
住 み や す い	143	17.8
どちらかといえば住みやすい	305	38.0
どちらともいえない	168	20.9
どちらかといえば住みにくい	92	11.5
住 み に く い	39	4.9
無 回 答 ・ 無 効	55	6.9
合 計	802	100.0



- 住みやすい
- どちらかといえば住みやすい
- どちらともいえない
- どちらかといえば住みにくい
- 住みにくい
- 無回答・無効

□過去の調査との比較

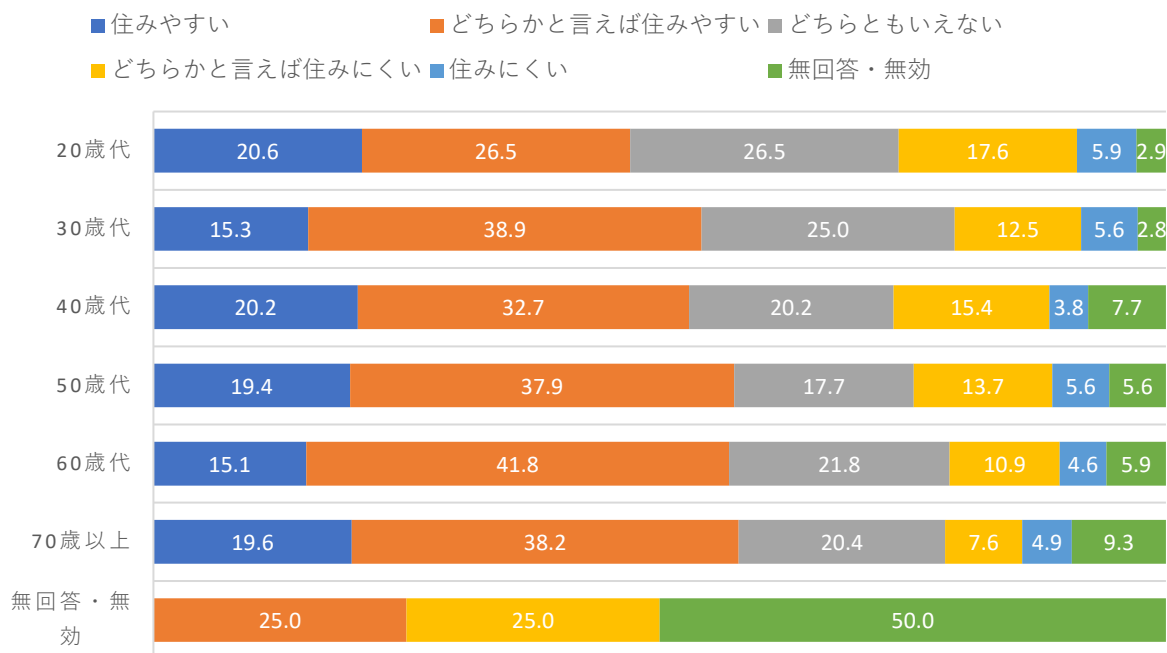
- 住みやすい
- どちらかといえば住みやすい
- どちらともいえない
- どちらかといえば住みにくい
- 住みにくい
- 無回答・無効



□年代別集計

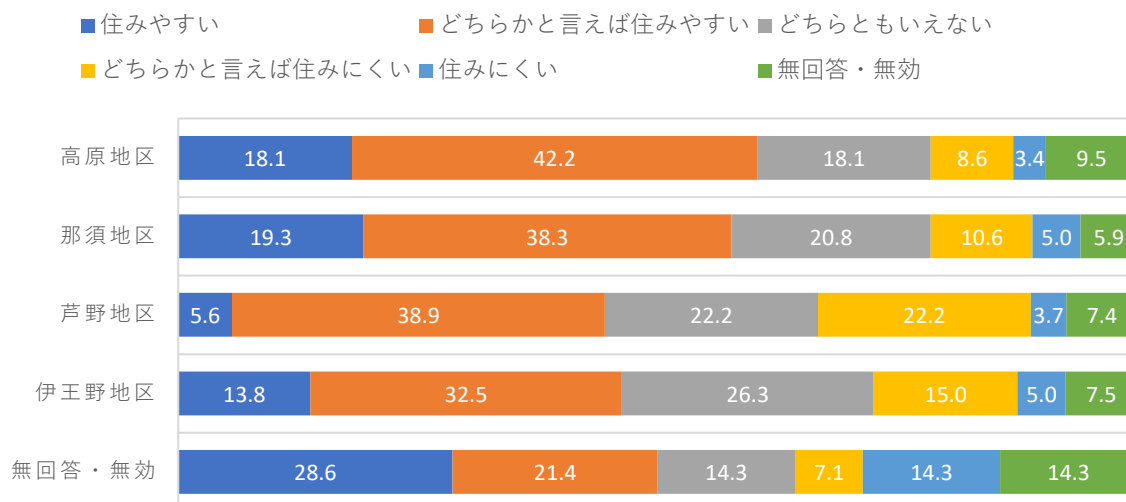
年代別にみると、「20歳代」で「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた「住みやすい」が47.1%となっており、最も低くなっています。

一方、「70歳代」は「住みやすい」が57.8%と最も高くなっています。



□居住地別集計

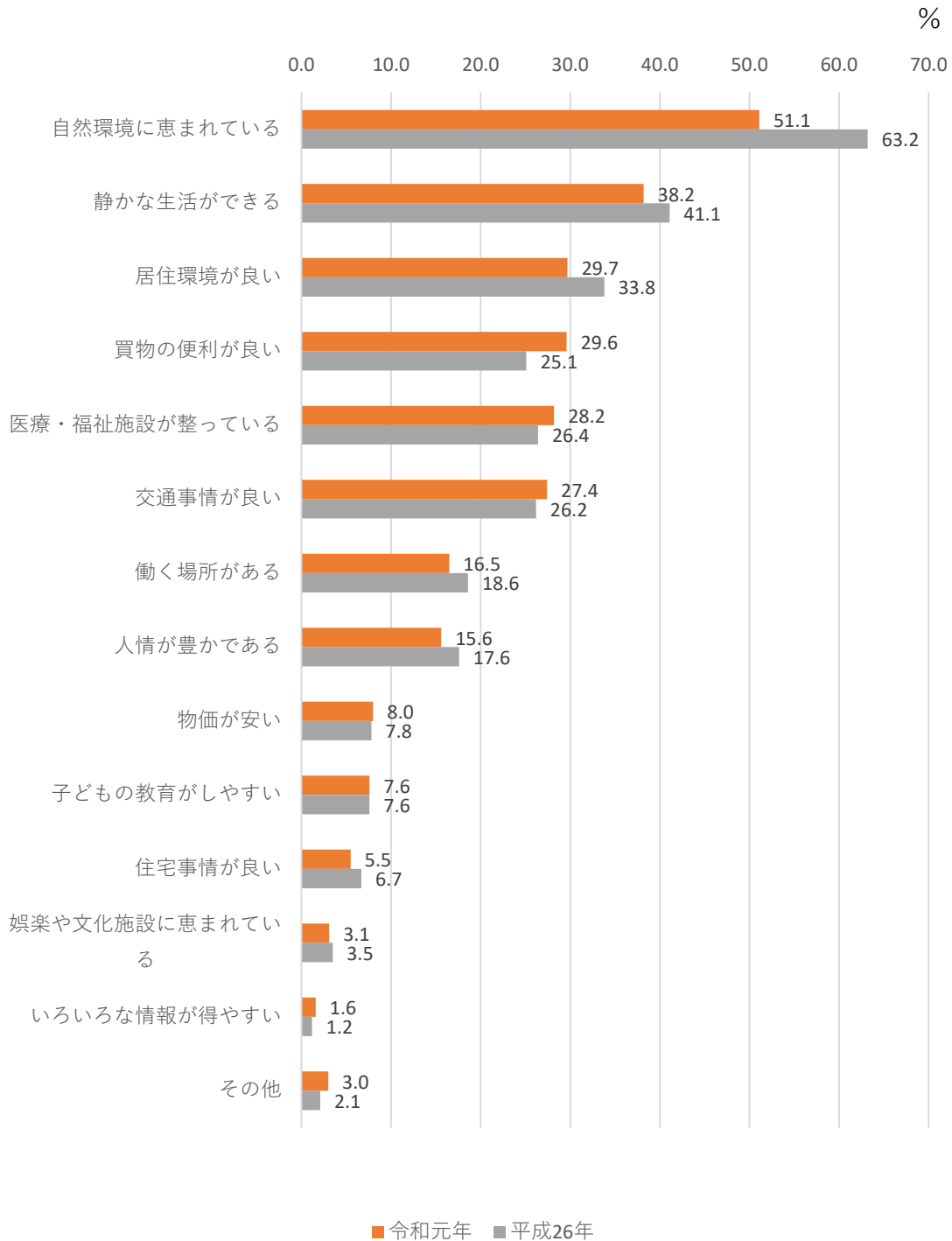
居住地別にみると、「高原地区」と「那須地区」で「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた「住みやすい」の割合が高くなっています。「芦野地区」で「住みやすい」の割合が5.6%と最も低くなっています。



【住みやすさの条件】

住みやすさの条件については、上位から「自然環境に恵まれている」が51.1%、「静かな生活ができる」が38.2%、「居住環境が良い」が29.7%、「買物の便利が良い」が29.6%、「医療・福祉施設が整っている」が28.2%、「交通事情が良い」が27.4%となっている。

前回の調査と同様の割合になっている。



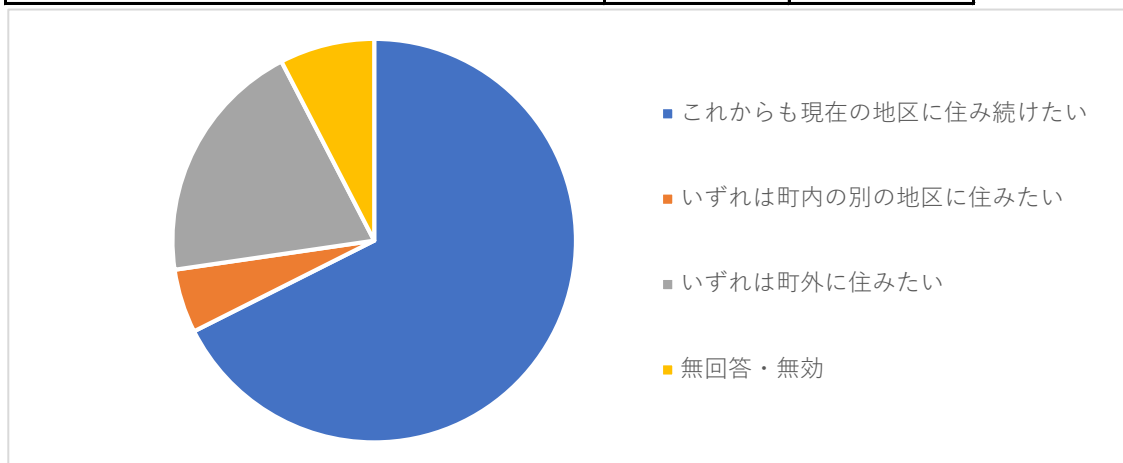
(2) 定住意向

【那須町への定住意向】

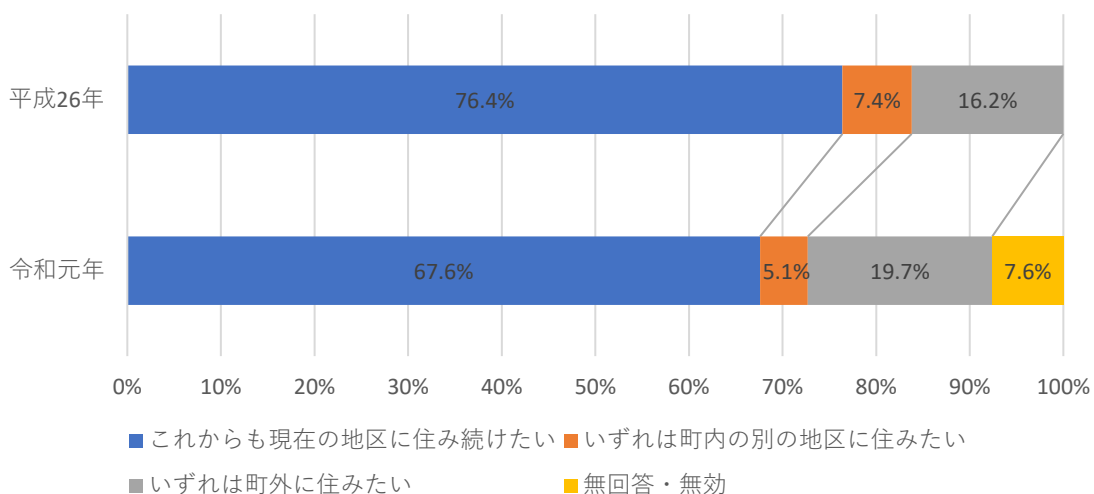
定住意向については、「これからも現在の地区に住み続けたい」が67.6%、「いずれは町内の別の地区に住みたい」が5.1%で、これらを合わせると「那須町に住み続けたい」は72.7%となっています。一方、「いずれは町外に住みたい」が19.7%となっています。

前回の調査より「那須町に住み続けたい」の割合が低くなっています。

区分	人数 (人)	割合 (%)
これからも現在の地区に住み続けたい	542	67.6
いずれは町内の別の地区に住みたい	41	5.1
いずれは町外に住みたい	158	19.7
無回答・無効	61	7.6
合計	802	100.0

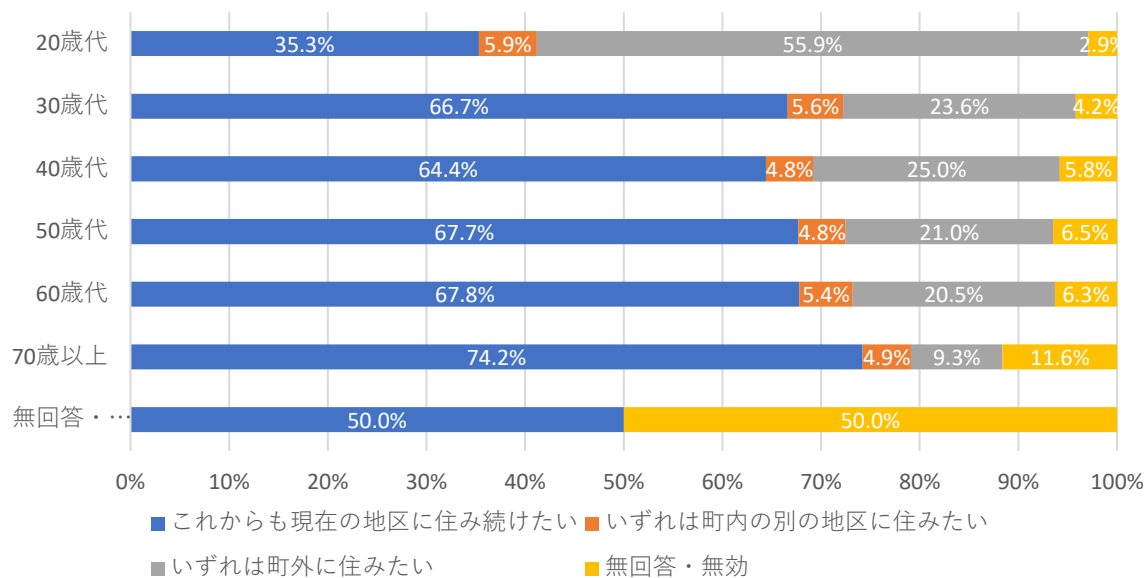


□過去の調査との比較



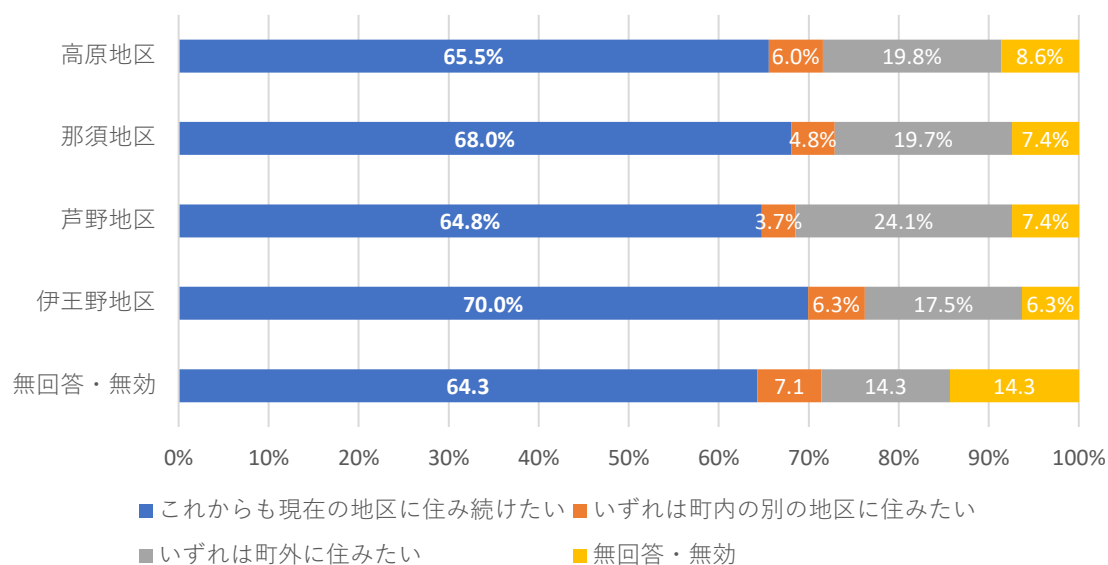
□年代別集計

年代別にみると、「20歳代」が目立って「いずれは町外に住みたい」の割合が高くなっている。
 前回調査よりも「20歳代」の「いずれは町外に住みたい」の割合が18.8%増加している。



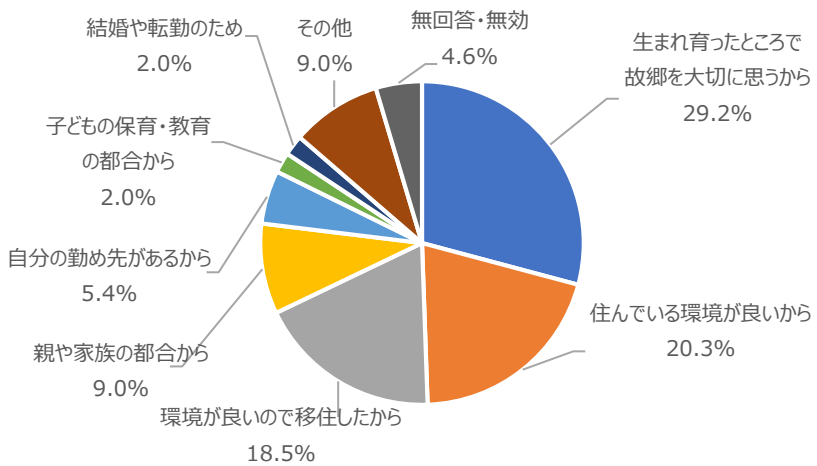
□居住地別集計

居住地別にみると、「伊王野地区」が「これからも現在の地区に住み続けたい」の割合が最も高くなっている。
 前回は「芦野地区」が84.8%で最も高かった。



【現在の地区に住み続けたい理由】

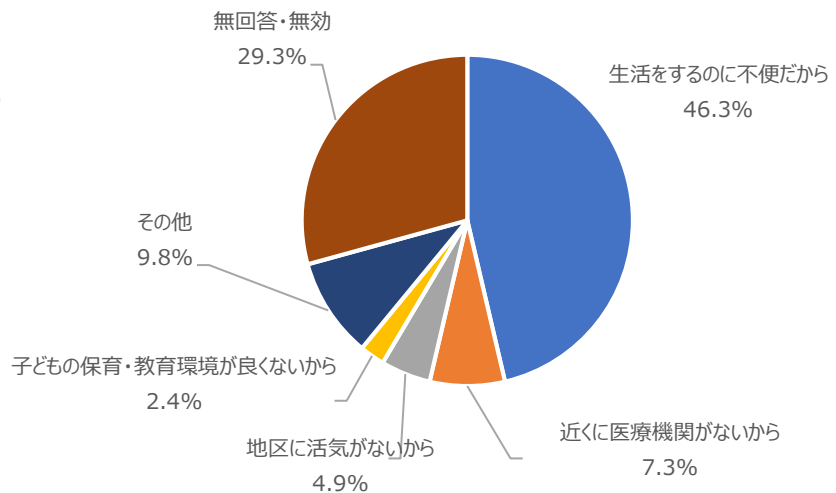
「これからも現在の地区に住み続けたい」を選んだ542人に対しその理由を聞くと、「生まれ育ったところで故郷を大切に思うから」が29.2%と最も高く、次いで「住んでいる環境が良いから」が20.3%となっています。前回の調査においても同じ項目が上位を占めています。



【いつかは町内の別の地区に住みたい理由】

「いつかは町内の別の地区に住みたい」を選んだ41人に対しその理由を聞くと「生活するのに不便だから」が46.3%と最も高く、次いで「近くに医療機関がないから」が7.3%となっています。

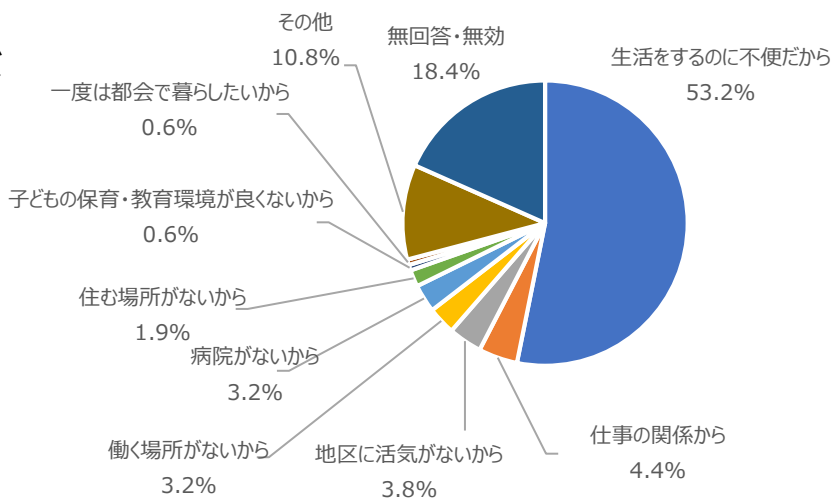
前回の調査で2番目に高かった「働く場所がないから」が0%となっています。



【いつかは町外に住みたい理由】

「いつかは町外に住みたい」を選んだ158人に対しその理由を聞くと「生活するのに不便だから」が53.2%と最も高く、次いで「仕事の関係から」が4.4%となっています。

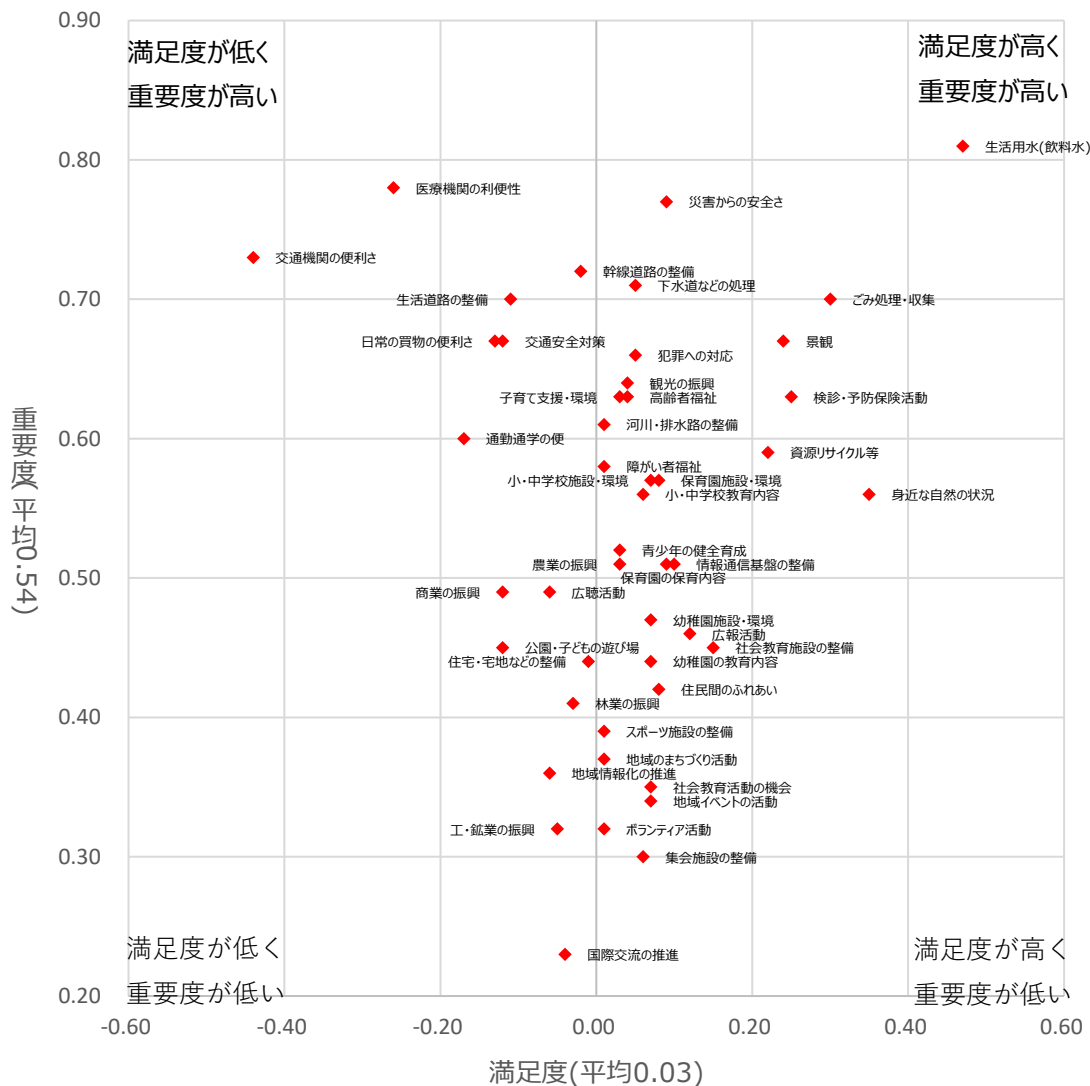
前回の調査においても「生活するのに不便だから」が約6割を占めています。



(3) 満足度・重要度

【全般的な事業の満足度・重要度】

満足度・重要度の5段階評価を実施した各施策項目について、散布図による分析を行うことで、今後の施策の優先度を把握することができます。左上ほど優先度が高く、「医療機関の利便性」「交通機関の便利さ」「生活道路の整備」「幹線道路の整備」「日常の買物の便利さ」「交通安全対策」「通勤・通学の便」などが該当します。



各施策項目の得点化の考え方

満足度

- 「満足している」の件数 × 1点
- 「やや満足している」の件数 × 0.5点
- 「どちらとも言えない」の件数 × 0点
- 「やや不満である」の件数 × -0.5点
- 「不満である」の件数 × -1点

上記の合計値

重要度

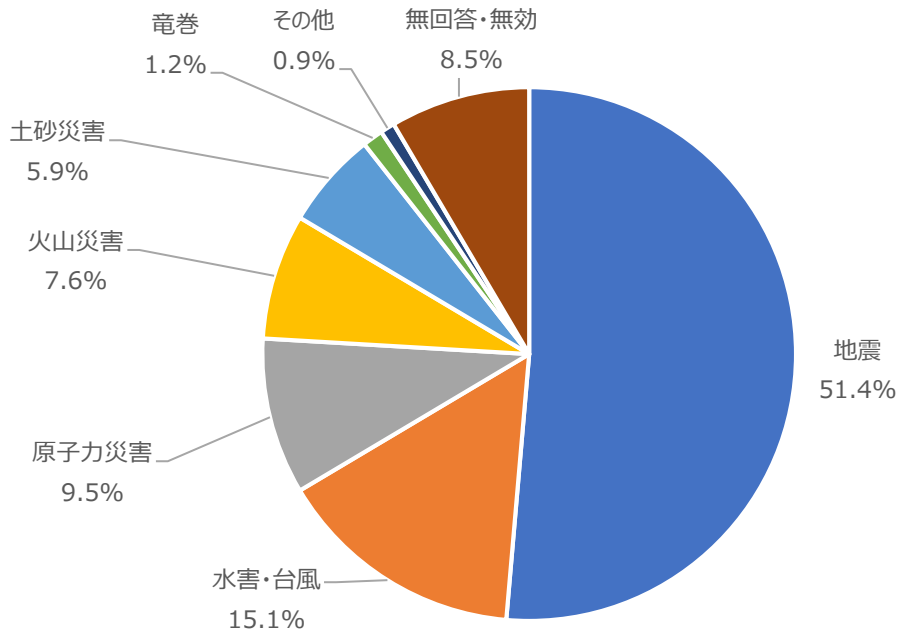
- 「満足している」の件数 × 1点
- 「やや満足している」の件数 × 0.5点
- 「どちらとも言えない」の件数 × 0点
- 「やや不満である」の件数 × -0.5点
- 「不満である」の件数 × -1点

上記の合計値

(4) 防災対策

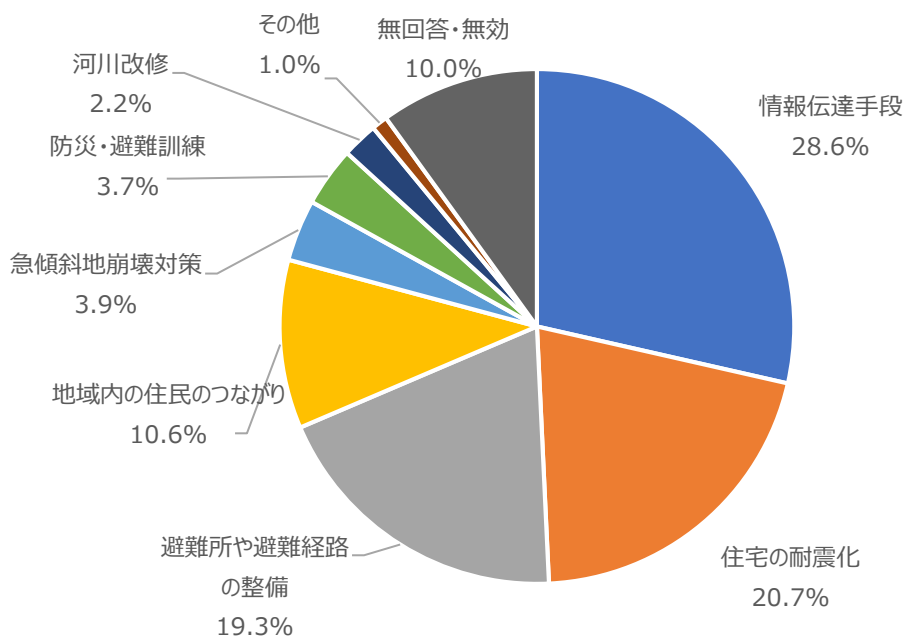
【最も不安な災害】

最も不安な災害について、「地震」が56.4%と最も高く、次いで「水害・台風」が15.1%となっています。



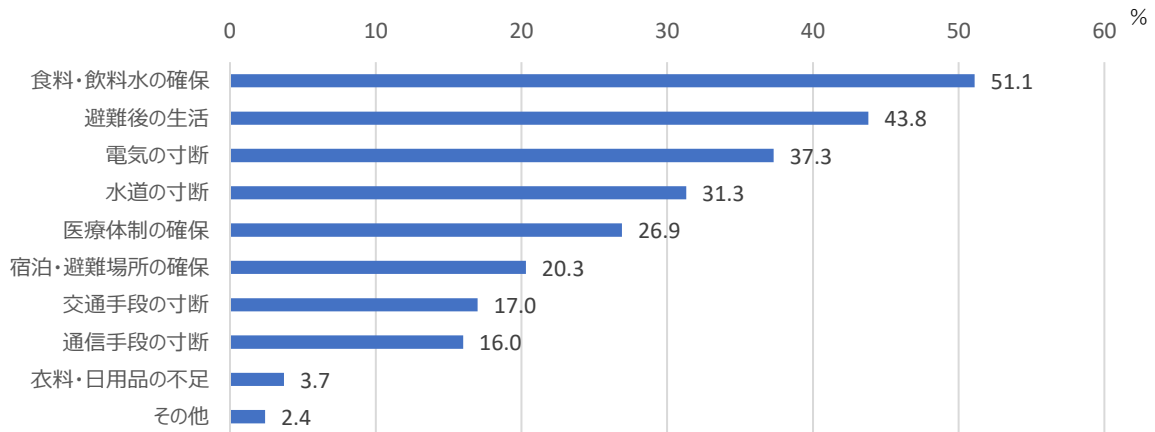
【災害から身を守るために必要なこと】

災害から身を守るため最も必要と感ずることについては、「情報伝達手段」が28.6%と最も高く、次いで「住宅の耐震化」が20.7%、「避難所や避難経路の整備」が19.3%となっています。



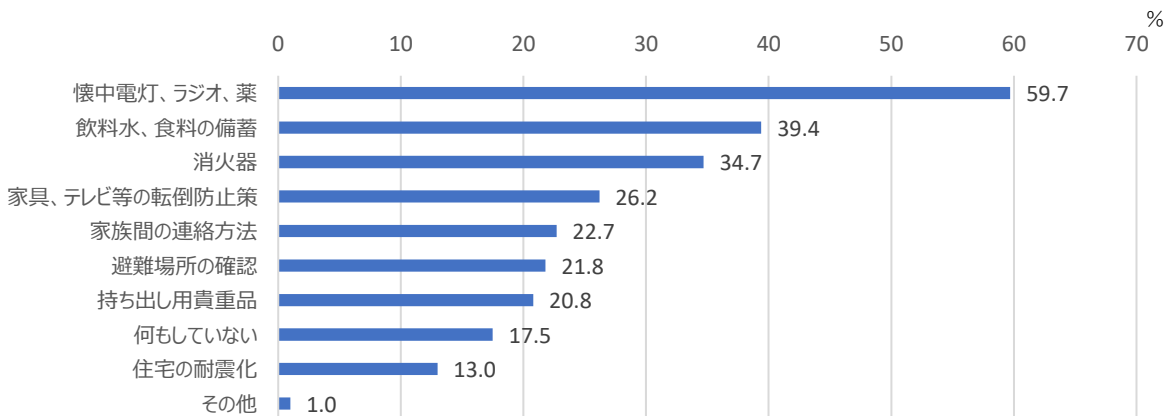
【災害発生後に不安に感じること】

災害発生後に不安に感じることは、「食料・飲料水の確保」が51.1%が最も高く、次いで「避難後の生活」が43.8%、「電気の寸断」が37.3%となっている。



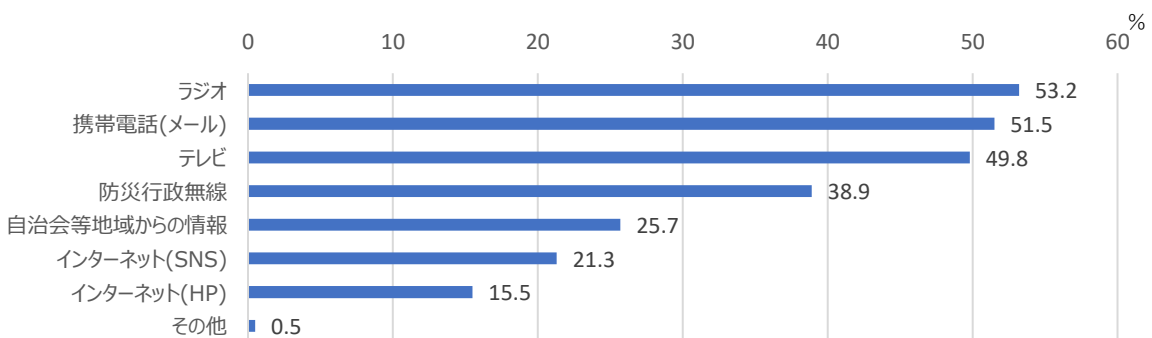
【防災対策】

災害に備えて家庭で行っている対策や準備は、「懐中電灯、ラジオ、薬」が59.7%で最も高く、次いで「飲料水、食料の備蓄」が39.4%、「消火器」が34.7%となっている。



【災害時の頼りになる情報】

災害時の頼りになる情報は、「ラジオ」が53.2%、「携帯電話(メール)」が51.5%、「テレビ」が49.8%と他の項目より高い割合となっています。



(5) 参加意欲

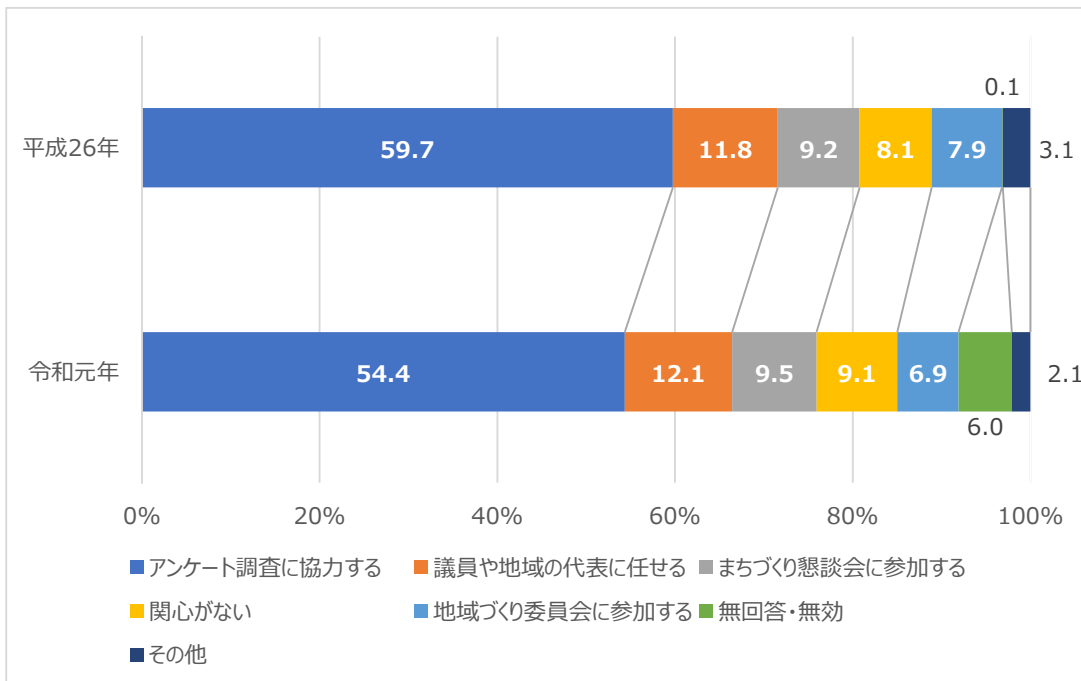
【町民の参加意欲】

町民の参加意欲については、「アンケート調査に協力する」が54.4%と最も高く、次いで「議員や地域の代表に任せる」が12.1%、「まちづくり懇談会に参加する」が9.5%となっています。

前回の調査と同様の割合となっています。

区 分	人数 (人)	割合 (%)
まちづくり懇談会に参加する	76	9.5
地域づくり委員会に参加する	55	6.9
アンケート調査に協力する	436	54.4
議員や地域の代表に任せる	97	12.1
関心がない	73	9.1
その他	17	2.1
無回答・無効	48	6.0
合 計	802	100.0

□過去の調査との比較



(6) 今後のまちづくり

【那須町の将来像】

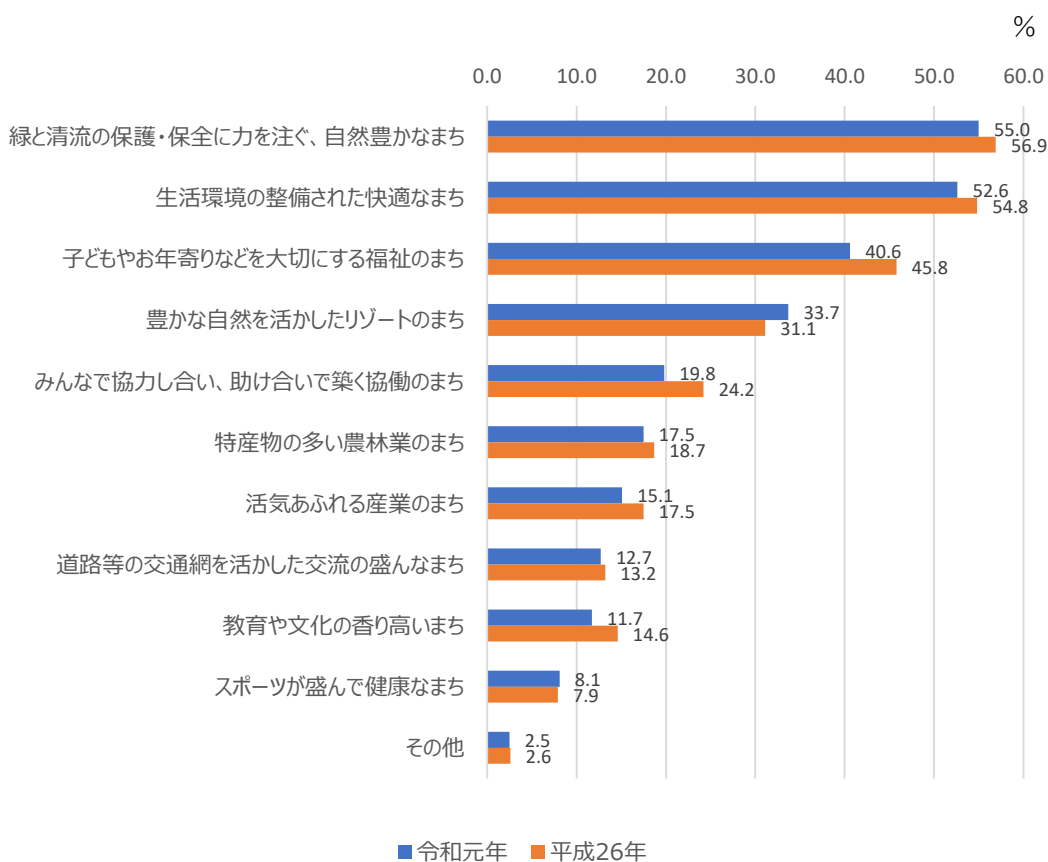
「緑と清流の保護・保全に力を注ぐ、自然豊かなまち」が55.0%で最も高く、次いで「生活環境の整備された快適なまち」が52.6%となっています。

前回の調査と同様の割合となっています。

(複数回答)

区 分	人数 (人)	割合 (%)
緑と清流の保護・保全に力を注ぐ、自然豊かなまち	441	55.0
生活環境の整備された快適なまち	422	52.6
子どもやお年寄りなどを大切にする福祉のまち	326	40.6
豊かな自然を活かしたリゾートのまち	270	33.7
みんなで協力し合い、助け合いで築く協働のまち	159	19.8
特産物の多い農林業のまち	140	17.5
活気あふれる産業のまち	121	15.1
道路等の交通網を活かした交流の盛んなまち	102	12.7
教育や文化の香り高いまち	94	11.7
スポーツが盛んで健康なまち	65	8.1
その他	20	2.5

□過去の調査との比較

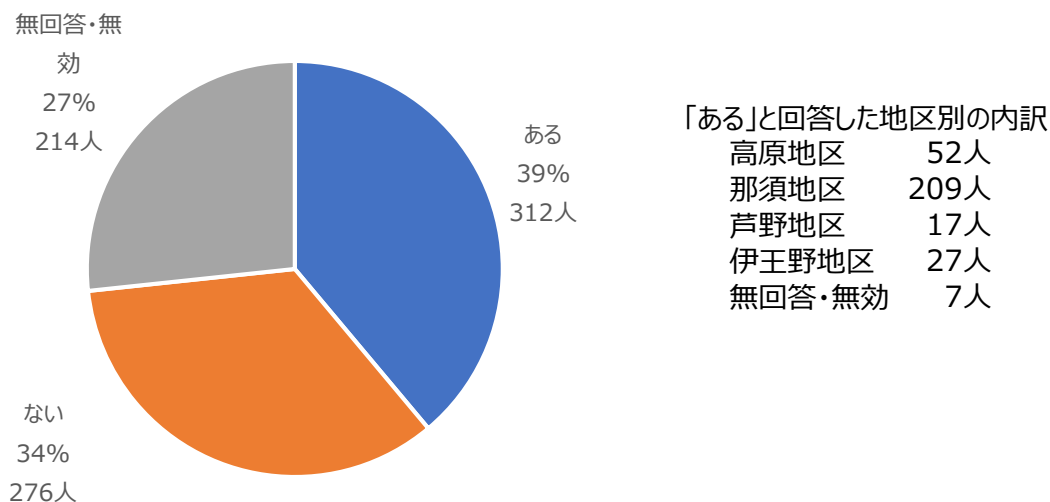


(7) 新たに整備・改修希望施設

【新たに整備・改修希望施設】

多かった意見の順にいうと「道路・歩道」が1位、「図書館」が2位、「運動公園」が3位、「廃校の活用」が4位、「スポーツセンター」が5位となっている。

地区別だと高原地区で「公民館」、「空き家・空き店舗の活用」が上位に入っている。



□全体

- 1位 道路・歩道
- 2位 図書館
- 3位 運動公園
- 3位 廃校の活用
- 5位 スポーツセンター

□地区別集計

高原地区

- 1位 道路・歩道
- 2位 図書館
- 2位 廃校の活用
- 4位 公民館
- 5位 空き家・空き店舗の活用

那須地区

- 1位 道路・歩道
- 2位 図書館
- 3位 運動公園
- 4位 スポーツセンター
- 5位 廃校の活用

芦野地区

- 1位 道路・歩道
- 2位 廃校の活用

伊王野地区

- 1位 廃校の活用
- 2位 道路・歩道
- 2位 図書館
- 2位 運動公園
- 2位 買物施設